

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

【製品名】	建機用汚れ固着防止剤(下廻り用)
【会社名】	株式会社 シ フ ト
【住 所】	大阪府堺市北区長曾根町46番地
【連絡先】	TEL 072-252-3231 FAX 072-252-3310

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性/引火性ガス	分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	区分4
可燃性個体	分類対象外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性個体	分類対象外
自己発熱性化学品物質	分類対象外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性個体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐蝕性物質	分類対象外

健康有害性

急性毒性(経口)	区分外
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入:ガス)	分類できない
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉塵)	分類対象外
急性毒性(吸入:ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分外
目に対する重篤な損傷性/目刺激性	区分外
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
授乳に対する影響	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	分類できない
特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	区分 1

環境有害性

水性環境有害性・急性	分類できない
水性環境有害性・慢性	分類できない

GHSラベル要素
絵表示



注意喚起語	危険
危険有害性情報	可燃性液体 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
注意書き	
「安全対策」	P210: 熱、火花、高温体等の着火源から遠ざけること。禁煙 P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
「応急措置」	P370+P378: 火災の場合: 消火するために粉末、泡または炭酸ガス消火器を使用すること。 P301+P310: 飲み込んだ場合: 直ちに医師に連絡すること。 P331: 無理に吐かせないこと
「保管」	P403+P235: 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。 P405: 施錠して保管すること。
「廃棄」	P501: 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄処理業者に廃棄を委託する(不明な場合は購入先に相談の上処理すること。)

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
成分	①合成炭化水素 (イソパラフィン) 85.0~88.0% ②変性シリコーン 10.0~12.0% ③グリシン 2.0 ~ 3.0%
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	① (2)-10 ② (7)-476 ③ (9)-77
CAS No.	① 68551-20-2 ② 63148-62-9 ③ 56-40-6
危険有害成分	
労働安全衛生法	
第57条 表示対象物	非該当
第57条の2 通知対象物	非該当
化学物質管理促進法	非該当
毒物劇物取締法	非該当

4. 応急処置

吸入した場合:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。身体を毛布などで被い、保温して安静を保つ。必要に応じて医師の診断を受ける。
皮膚(又は髪)に付着した場合:	直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚を大量の水と石鹸で洗う。 汚染された衣服を再使用する場合には洗濯する。
眼に入った場合:	水で15分間以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。その後も洗浄を続け医師の診断・手当てを受ける。
飲み込んだ場合:	無理に吐かせないこと。直ちに医師の診察を受ける。無理に吐かせるとかえって肺への吸引等の危険が増す。口の中が汚染されている場合には、水で十分に洗浄する。
医師への注意:	経口摂取した場合、本物質は肺まで吸引され、化学物質による肺炎が起こることがある。適切に治療する。

5. 火災時の措置

消火剤：	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス
使ってはならない消火剤：	棒状放水、
特有の危険有害性：	蒸気は可燃性で空気よりも重い。蒸気は地面を移動して遠方の着火源に到達し、逆火の危険を起すことがある。
特有の消火方法：	漏出物または流出物が引火していない場合、霧状の水を使用して蒸気を消散させ、漏出を止めようとしている人を保護する。 消化剤やその希釈剤が、水路、下水、あるいは上水道へ流入することを防ぐ。 周囲の設備等に散水して冷却する。 火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護：	消火作業は風上から行い、必ず保護具を着用する。燃焼又は高温により、有毒ガスが生成する可能性があるため呼吸用保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具 および緊急措置：	流出または放出事故が起きた場合、すべての適用法令に従って関係機関に通報する。 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外は立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。
環境に対する注意事項：	河川、下水道等に流入しないように注意する。
回収・中和、並びに封じ込め 及び浄化の方法及び機材：	速やかに全ての着火源を取り除き、漏洩箇所の漏れを止める。 砂等の燃えない吸収剤で漏洩物を吸収して廃棄容器に入れる。
二次災害の防止策：	全ての着火源を速やかに取り除く。排水溝、下水溝、地下室等への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	
技術的対策	指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。熱、火花、裸火、高温体等との接触を避けるとともに、みだりに蒸気を発散させない。静電気対策をおこない、作業着、靴等も導電性のものを使用する。
局所排気・全体排気 安全取り扱い注意事項	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。 使用前に使用説明書を入手すること。すべての安全注意を読み理解をするまで取り扱わないこと。 皮膚との接触を避けること。眼に入れないこと。ミスト、蒸気を吸入しないこと。
接触回避 衛生対策	「10. 安定性及び反応性」を参照。 作業後、温水を使用し石鹸等で手を良く洗う。温水でうがいをしてから、飲食等をする。 汚染物質を取り除くために定期的に作業着と保護具を洗濯する。洗濯できない汚染された衣類及び靴などは廃棄する。確実な備品管理を実施する。
保管(安全な保管条件)	
技術的対策	消防法の規制に従う。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は設置する。禁煙 酸化性物質との接触並びに同一場所での保管を避ける。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。容器は直射日光や火気を避けること。容器を密閉して換気の良い冷所で保管すること。
混触禁止物質	「10. 安定性及び反応性」を参照。
保管条件	保管温度： 5～40℃
容器包装材料：	容器に圧力をかけない。圧力をかけると破裂することがある。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。
------	-----------

許容濃度	日本産業衛生学会(2012年版) ACGIH(2012年版)	主たる基油としてデータなし TWA 主たる基油としてデータなし
------	-----------------------------------	------------------------------------

設備対策	作業場の近くに手洗い、洗眼などの設備を設ける。 作業場には防爆タイプの換気設備を設ける。
保護具	
呼吸用保護具	酸性ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器
手の保護具	対酸性保護手袋、耐油性保護手袋 (ニトリル製耐化学薬品性手袋を使用することが推奨される。)
眼の保護具	ゴーグル型保護眼鏡
皮膚及び身体の保護具	ビニール製保護衣、ゴム製保護長靴
適切な衛生対策	付着した衣類は脱ぎ、完全に清浄にしてから再使用する。 取扱い後はよく手を洗う。作業中は飲食、喫煙をしない。

9. 物理的及び化学的性質

外観：	無色透明液体
臭い：	特有臭
pH：	データなし
初留点：	135℃以上
引火点：	76℃
自然発火温度：	200℃以上
燃焼性（個体、ガス）：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重（密度）：	0.76～0.79（15℃，g/cm ³ ）
溶解度（水）：	不溶解
流動点：	－50℃以下

上記に記載のないデータは現在の処、有力な情報を得ていない。

10. 安定性及び反応性

安定性：	室温・常圧においては安定である。
危険有害反応可能性：	強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件：	直射日光、加熱、スパーク、はだか火、およびその他の発火源は避ける。 混触危険物質との接触。
混触危険物質：	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質と接触しないよう注意する。
危険有害な分解生成物：	燃焼の際は煙、一酸化炭素等有毒ガスが発生する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性（経口）：	ラット LD ₅₀ 5000mg/kg 以上推定値
急性毒性（経皮）：	ウサギ LD ₅₀ 5000mg/kg 以上推定値
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）：	データなし
皮膚腐食性：	データなし
皮膚刺激性：	弱い刺激性あり
眼に対する重篤な損傷・刺激性：	データなし
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データなし
生殖細胞変異原性：	データなし
発がん性：	データなし
生殖毒性：	データなし
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）：	データなし
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）：	データなし
吸引性呼吸器有害性：	40℃で測定した動粘性率が20.5mm ² /s以下の炭化水素。ヒトの摂取により肺への吸引を起こし、その結果油性肺炎または化学性肺炎をもたらすとの報告がある。

12. 環境影響情報

生態毒性：	データなし
残留性/分解性：	データなし
生体蓄積性：	データなし

土壌中の移動性：	データなし
オゾン層への有害性：	データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：	廃棄する場合は焼却設備等で少量ずつ焼却処分を行う。 処分作業は取り扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。
汚染容器及び包装：	外部委託する場合は、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。 使用済み包装容器は内容物を完全に除去した後、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託する。空容器に圧力を加えると破裂することがある。 空容器は溶接、加熱、穴あけまたは切断を行うと、爆発を伴って残留物が発火することがある。

14. 輸送上の注意

国際規制：	航空輸送はICAO/IATA及び海上輸送はIMOの規則に従う。
国連番号	非該当
国連分類	非該当
海洋汚染物質	非該当
MARPOL73/78附属書Ⅱ及びIBCコード	
によるばら積み輸送される液体物質	非該当
国内規制：	
陸上	消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空	航空法に定められている運送方法に従う。
輸送の特定の安全対策及び条件	運搬容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。 漏出を避けるため、容器の破損に注意し、運搬には質量に適合した手段をとる。 輸送作業は取り扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取り扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法	非該当
海洋汚染防止法	油分排出規制
消防法	危険物第4類第3石油類 非水溶性 危険等級Ⅲ
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質管理促進法	非該当
廃棄物の処理及び清掃に関する法律：	産業廃棄物規則

16. その他の情報

参考資料

1. JIS Z 7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
2. 許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会(2012)
3. 米国産業衛生専門家会議(ACGIH) (2012)
4. JIS Z 7252:2014 GHSに基づく化学品の分類方法

安全データシートは危険有害な化学品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う業者は、これを参考として自らの責任において、個々の取り扱い等の実態に応じた適切な処置を講じることが必要である事を理解した上で、活用されるようお願い致します。

したがって本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。